

躍 YAKUDO! 動 SPORTS

SPORTS PEAK PERFORMANCE



加藤 条治 山形での 最後の滑り

写真提供：山形新聞社



専門委員会の
活動を活発に

(財)山形市体育協会
専務理事 板垣 歳光

財団法人山形市体育協会は、創立二年目を迎えました。五月二十八日(水)に第一回理事会・評議員会を開催し役員改選を行い、再選された西谷金蔵会長を中心とした新体制により平成十五年度のスタートを切りました。

事務局は、昨年の七名から十名と三名の職員を追加採用し、今後予想される市民のスポーツ活動への様々な要望に答えていけるよう研鑽を積み力をつけて対応するつもりです。

当協会の活性化と発展は、各専門委員会の活動如何にあると考えられます。今年度から以前の四専門委員会制を五専門委員会制に改正し、総務委員会の仕事であった広報に関する部分を離し新たに広報委員会を設けました。仕事の内容としては、機関誌「躍動」の発行と広報活動、さらには、これから重要になると思われるスポーツに関する情報の収集と提供の仕事を担うことになりました。生涯スポーツ委員会は、県が平成十四年三月に策定した「山形県スポーツ振興計画」における今後十年間に県内各市町村に一つ以上の「総合型地域スポーツクラブ」を育成することについて当協会としてどのように取り組んでいくかということに関係組織と連携をしながら検討していきたい。ジュニアスポーツ委員会は各種講習会・研修会等を通して一人でも多くの優秀な指導者を育成すること、また、競技スポーツ委員会は選手の育成、強化を進める上で絶対に必要であるスポーツ医学の分野についても積極的に取り組んでいきます。さらには、昨年実施した「スポーツシンポジウム03」ジュニアスポーツ指導者研修会「スポーツ懇談会」を一本化し当協会の一大イベントとして開催する予定であります。各専門委員長を中心とした委員の皆様方の活躍に大いに期待するところであります。



頂点

P E A K

武田 聡

Satoshi Takeda

私がソウル五輪の競泳競技に出場したのは一九八八年、第二十四回大会である。

当時は早大二年で、高校時代から個人メドレーで日本代表に選出されていたが、五輪代表の座を掴んだのは、バタフライであった。

理由は個人メドレーの国内レベルでは、世界では戦えず、仮に選考会で優勝しても、代表入りは難しかったためである。

急遽の種目変更は不安もあったが、選考会は一発勝負。特段の実績もなかったため、プレッシャーも他の選手から見ればあまり感じず、得意の後半に先行する選手を捕らえ、見事代表権を勝ち取った。

本大会は経験不足や、少々舞い上がった感じなどもあり、目標であった決勝へ進むことは出来なかったが、他の大会とは違う独特の雰囲気を経験出来たことは、今も貴重な財産で

ある。更に自分のレースと同日、日本人として十六年ぶりに鈴木大地氏が優勝し、チームメイトとして大きな感激を味わえた事も素晴らしい思い出である。

十五年を経た今の日本水泳界は、世界レベルに到達し、また、山形県の水泳界も活気にあふれており、後輩達の活躍は誠にうれしい限りである。競技を離れ久しい現在、記事や栄光は全て過去のものであり、社会生活を送る上ではほとんど意味のなさないものとなった。

役立つているもの……それは目標達成への弛まない努力の意味。そして目標達成時の充実感。また成果を上げるために思考錯誤を繰り返し、多方面から解決策を見出していく視点等、誰もがスポーツを通して経験できるものだけだろう。だが、この意味を五輪出場により再確認できたことこそが最も価値のある貴重な財

産であると信じている。

そして三十五歳になる今も週二回程水に入る。貴重な財産を作ってくれた水泳と多くの支えていただいた方々に感謝し……。

ただゆつたりと気持よく……。

武田 聡氏

一九六八年生まれ。日本大学山形高等学校、早稲田大学人間科学部スポーツ科学科卒。

競泳バタフライ・個人メドレーで、ソウルオリンピックに出場し、バタフライでは、十五位・個人メドレーでは、惜しくも予選不通過の成績を収める。

【八六年】アジア大会

個人メドレー二〇〇M 第三位

四〇〇M 準優勝(日本)

【八七年】ユニバーシアード大会

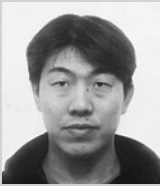
二〇〇M×四リレー 第五位

日本学生選手権

四〇〇M個人メドレー 優勝

【八八年】アジア選手権

四〇〇M個人メドレー 優勝



現在は東北電力株郡山営業所に勤務。

輝かしき記録に想う



写真提供：カメラマン 黒崎雅久 Masahisa KUROSAKI

ワールドカップ(W杯) スキークロスについて

フリースタイルスキー
(ディナスターラングスキークラブ)

瀧澤宏臣

四〜六人が一斉にスタートし、一〇〇〇m程のコースの途中にあるウェーブ、バンク、ジャンプと様々な障害物を乗り越え、一番早くゴールした者が勝ちという非常にシンプルな形で勝敗が決定する種目。元々アメリカで毎年冬に行われている、世界最大のアクションスポーツイベントであるWinter Gamesで初めて考案され、種目化された競技です。

昨シーズン(二〇〇二―〇三年)より、FIS(国際スキー連盟)のフリースタイル種目の一つとして正式に組み込まれ、昨季は全五試合が予定されました(内二大会が雪不足の為中止)。そのスキークロスがFISワールドカップの正式種目になっ

た一年目で、私は幸運にも初代種目別チャンピオンになることができました。

来シーズンは各大会での反響が大きかったせいか、一気に九大会場まで増え、さらに日本での開催(新潟苗場)も予定されています。

さてスキークロスの最大の特徴と言えば、やはり複数(四〜六人)の選手で一斉に同じコース内で争うということですね。これは従来のスキー競技では全く無かった形で導入され、滑っている側も見ている側もよりエキサイティングにそしてショーアップできる種目になっています。欧米では、FISの正式種目となったことにより、一気に認知度と注目度が高まり、今後アルペンからの導入、そして各地域で行われている大会への参加者が益々増えてくる事が予想されます。

私は来シーズン、ディフェンディングチャンピオンとしての力量が問われるシーズンとなります。このオフシーズンの間でどのような過ごし方をするかですが、三年前から社会人としてやってきたこれまでの間にトレーニングする時間が確保できていたわけではなかったため、再度基本的な体力アップに努めていこうと考えています。そして今回の総合チャンピオンは、ここまで私を支えてくれた方達のお陰といっても過言ではないものでした。

そして来期は自分の力で勝ち取れるよう頑張っていこうと思います。

夢への近道

スノーボード(山形南高等学校)

斯波正樹

〇二―〇三シーズンに私はFIS Jr世界選手権に出場した。結果は三十二位だった。練習通りに滑れたなら、上位には必ず入れた。言い訳のように聞こえるかも知れないがその時の調子はいつもと違っていい。現地では、大会の前三日間練習できる日が設けられていたが、思い通りに滑れず、普段では考えられないようなところでこけたり、体のキレも悪かった。良く滑ろうとすればするほど自分の中で空回りしてしまいどんどん調子が悪くなっていった。

大会では予選も通れず、決勝をゴール付近で見ている。さすがにトップ選手は上手だ。関節の曲げ方、脚の使い方など見ているだけでとても勉強になった。しかし私は、そのレベルの差に自信を無くすことはなかった。むしろ「俺ならやれる」と確信した。

〇二―〇三シーズンは結果を残すことはできなかった。「練習の良い滑りを大会でさせた



ら…」という大会ばかりだった。しかし練習では着実に進歩している。明確な課題も見えているので来シーズンは必ず良いことがあるような感じがする。一シーズン一シーズン確実に進歩していく事が、私の夢であるトリノオリンピックで優勝するのに一番の近道だと思う。後から思えば今シーズンは気負いすぎてあせっていたのかも知れない。あせることはない、一つ一つがんばっていきたい。

輝かしく記録に想う



『苦しい時こそ、チャンス』

ボクシング (日大山形高校)

佐藤 祐平

私は、埼玉県で開催された「全国高校ボクシング選抜大会」において、バンダム級で優勝することが出来ました。山形県勢としては全階級を通じて初の選抜大会制覇で、日大山形としても十六年ぶりの全国タイトル獲得でした。

私は、この優勝で今までにない感動と達成感を得る事ができ、私をサポートして下さった方々に深く感謝したいと思います。全国大会は、昨年のインターハイ・国体に続き三度目の出場です。今までの全国大会においての失敗、経験をどの程度生かせるかが、私の最大の目標であり、挑戦でした。昨年までと違うのは、同学年同士の戦いという事で、容易

に負けられない闘志力が、私を奮い立たせました。試合の中でも準決勝の大阪朝鮮高との試合は、山場であり勝負所でした。最終ラウンドまで

苦しい闘いが続きましたが、見事に打ち勝つ事ができ、優勝への道がとて近く見えました。この準決勝で勝った勢いが決勝戦に繋がりました。決勝の相手は、強豪・九州代表の選手でしたが、左フック、右ストレートで二度ダウンを奪い自分のペースで試合を進める事ができ勝つことが出来ました。

私は、この大会を通じてまだまだ、自分の未熟さを感じ、更なる努力が成長に繋がる事を実感しました。そして「苦しい時こそ、チャンス」だという事を学ぶ事が出来ました。自分自身の納得のいく練習を積み、自信をつけ、長崎インターハイでは、二連覇目指して頑張りたいと思います。

山形市立商業高校

レスリング部

顧問 芦野 茂美

今年は何部五十年を迎える記念の年でもあります。我部の今日迄の全国大会での主な実績は、団体戦、準優勝二回、三位入賞、四回。個人戦での優勝者は、延べ人数三十数名を数えます。これらの実績からも、改めて長い歴史と輝かしい実績を再認識するとともに、伝統を築かれてこられた約三五〇名のOBと歴代顧問に敬服し、更なる隆盛を目指して部員共々活動をしている毎日です。

さて、今年三月に新潟市で行われた全国選抜大会では、三十一年ぶりに団体戦で三位に入賞し表彰台に上ることができました。

また、個人戦でも五十kg級須藤が三位に入り健闘をしてくれました。レスリング競技の団体戦は、五十kg、五十四kg、五十八kg、六十三kg、六十九kg、七十六kg、百二十kg級の七階級に力のある選手を一人ずつ配置しなければ上位進出は見込めません。

今大会は、各ブロック予選を勝ち抜いた四十三チームが出場しました。三月下旬とはいえ、夏のインターハイに向けての前哨戦となる大切な大会でもありました。選手達は、日頃の練習は勿論、合宿や遠征を通じて「全国でも上位を狙える」という手応えと自信を深め、「表彰台に上がる」という目標をもって大会に挑み



ました。二回戦から準決勝までの四試合は、いずれも厳しい試合の連続でしたが、選手達の負けたくない一心での逞しい戦いぶりが好成績に結びついたものと思われま。今後は、夏のインターハイに向け、部員、顧問、コーチ一丸となって「日本一への挑戦」を合言葉に日々の練習に取り組んで行きたいと思ひます。

最後に、全国大会前後には、市長さんをはじめ、市教委及び体育関係それぞれの多くの方々に激励をいただきましたことに厚く感謝申し上げますと同時に、更に発奮材料として成果をあげられるように、努力して行きたいと思ひます。



バスケットボール
日大山形



スピードスケート
成年男子2,000mリレー



大回転成年男子B
伊東英朗



大回転成年男子A
佐藤照友旭
写真提供:山形新聞社

国際大会入賞者

競技	氏名	所属	種目	成績
スケート	加藤 条治	山形中央高	W杯長野大会(第1日)男子500m	3位
			W杯長野大会(最終日)男子500m	5位
			W杯中国ハルビン大会(第1日)男子500m	2位
			W杯中国ハルビン大会(最終日)男子500m	13位
			W杯アメリカ・ソルトレークシティ大会(第1日)男子100m	4位
			W杯アメリカ・ソルトレークシティ大会(第2日)男子500m	2位
			アジア大会(青森)男子500m	5位
			W杯ドイツ・インツェル大会(第1日)男子500m	7位
			W杯ドイツ・インツェル大会(最終日)男子500m	7位
			W杯ドイツ・インツェル大会(最終日)男子100m	2位
			W杯オランダ・ヘーレンフェイン大会(第1日)男子500m	8位
			W杯オランダ・ヘーレンフェイン大会(第2日)男子500m	8位
			第7回世界距離別選手権ベルリン大会男子500m	12位
スノーボード	斯波 正樹	山形南高	スノーボードJr世界選手権	32位

フリースタイルW杯

スキー	滝沢 宏臣		スキークロス	優勝
-----	-------	--	--------	----

第58回国民体育大会冬季大会 入賞者

スケート	加藤 条治	山形中央高	少年男子スピード500m	優勝
			少年男子スピード1,000m	2位
	荒井 充 垂石 実 丹野 泰隆 寺嶋賀寿生	山形市スポーツ振興事業団 関東学院大学3年 日本体育大学1年 山形県スポーツ振興基金	成年男子スピード2,000mリレー	5位
			スキー	伊東 秀朗 佐藤照友旭

全国高等学校総合体育大会 入賞者

スケート	加藤 条治	山形中央高	スピード男子500m	優勝
			スピード男子1,000m	優勝
	山形中央高	男子学校対抗	5位	

全国高等学校選抜大会 入賞者

ボクシング	佐藤 祐平	日大山形	バンタム級	優勝
バスケットボール	菊地 祥平・佐藤 準		日大山形	5位
	小川 智彬・畑 雄太郎			
	三沢 龍児・斎藤 貴行			
	斎藤 健悟・武田 剛			
レスリング		山形商業	団体	3位

JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアスキー選手権大会

スキー	加藤 敏明	日大山形	男子回転	3位
-----	-------	------	------	----

JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳大会

水泳	庄司 有太	日大山形	200m個人メドレー	優勝
			400m個人メドレー	2位
			100m背泳ぎ	8位
			日大山形	400mリレー

山形地区ソフトテニス連盟

会長 奥山 敏一

山形地区ソフトテニス連盟は、山形モータースポーツ協会愛好会会員約一五〇名を筆頭に、一般二十二団体、スポーツ少年団六団体、高校十七校、中学校二十二校を傘下にいれ、総勢六十七団体約二、二〇〇名（男子約一、二〇〇名、女子約一、〇〇〇名）で、構成されております。

このように加入人員が多いのは、低学年から高年齢の方にも、男も女も気軽に楽しめるスポーツの由縁です。

これを運営する組織は、競技、審判、強化、普及、会員登録、広報の各委員会とそれらを司る総務委員会構成されており。

*主な仕事

山形地区主催大会、共催大会年間約二十大会以上の運営と、特にジュニア層の普及活動であり、強化活動（ジュニア、中学、高校、一般）です。

普及活動は、主にスポーツ少年団の育成に力を入れております。

平成十五年度にレッツ中山スポーツ



少年団が正式に加盟し、スポーツ少年団山形テニスクラブ、山辺テニススポーツ少年団、寒河江テニスクラブと六団体となりました。

各クラブの交流大会を開催したり、県連と連携し指導者講習会、審判講習会等を開催し、技術の向上、マナーの育成を目指しております。

*全国大会、東日本大会を山形に！

山形市近郊には、山形市総合スポーツセンター（落合）テニスコート十六面、山形県総合運動公園（天童）テニスコート十八面、屋内の多目的コート四面の人工砂入芝コート計三十八面があります。

このように、移動時間二十分以内にテニスコートが集約されているのは、全国でもまれで、大会を開催するには恵まれた環境であり、その上宿泊施設が多く会場も近くなによりです。

最近では平成十三年に東日本学生選手権大会、平成十四年全国日本レディーズ個人戦大会、本年も七月二十七日から八月一日まで東日本学生選手権大会を山形市において開催いたします。

延べ一、五〇〇名もの大学生が、蔵王温泉観光協会の協力の下宿泊します。更に、来年八月に全国小学生ソフトテニス選手権大会（男女各二〇〇組）選手八〇〇名、父兄を含めると約二、五〇〇名が山形市に集まります。

このように大会を招致し、全国トップレベルの選手を目的にしたり一緒に練習会を開催することで意識の高揚を促し、強化に繋がることを確信しております。

そして更には、山形の観光行政の面で一役買っていると思っております。

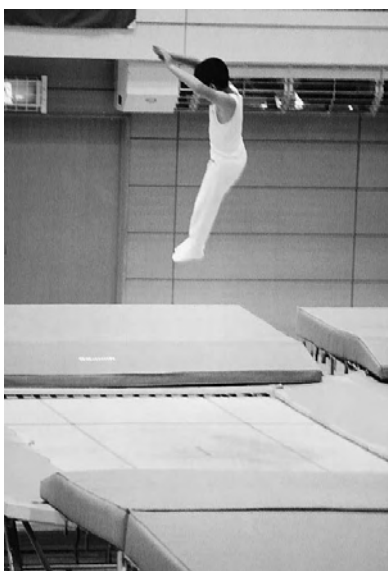
山形市トランポリン協会

会長 斎藤 淳一

山形市トランポリン協会は平成十三年十一月に斎藤淳一（市議）会長が就任し発足しました。山形市にはトランポリンクラブが四団体ありますが、協会設立と同時に加盟し、それぞれ独自に練習しています。現在、協会に加盟している各トランポリンクラブでは幼児から上は七十歳以上の愛好者が、楽しく練習しています。

昨年度、山形市総合スポーツセンターに新しく競技用の台を設置していただき、より大きな競技大会が開催できる環境になりました。今まで、天童市のべにはなスポーツパークで行われていた、山形県トランポリン選手権大会や山形市長杯トランポリン選手権大会も、今年は山形市総合スポーツセンターで開催されます。

設立と同時に競技だけではなく愛好者のために山形市トランポリンフェスティバルも開催しています。フェスティバルはトランポリンの台を使用し



て、ジャンケンゲームをしたり、参加者自身の得意な技の回数を競ったり、技を重ねて競い合うシャトルゲームでチーム対抗戦をして楽しむお祭りです。本協会以外の愛好者でも気軽に参加出来る催しになっていきます。まだ競技大会に出られない小さい子も、このフェスティバルは大変喜んでおりとても楽しんでいきます。

また、底辺拡大のため小学生までの子は、五級から一級まで段階的に受けられるバジジテストを受けトランポリンの基礎を学んでいます。トランポリンは体力向上及び全身運動なので、スポーツ全般の基礎を習得するのに大変有効であり、また、腹筋と背筋がバランスよく鍛えられ、最近ではダイエツトにも効果的だといわれています。このように子どもだけのスポーツではなく、生涯続けられるスポーツとして子どもから大人まで愛好者が増えていきます。

トランポリン競技は一九九九年に山形県が会場になった第十二回全国スポーツレクリエーション大会で正式参加種目となり、また、二〇〇〇年のシドニーオリンピックより正式種目に採用されています。世界大会を目指す中高生の選手や生涯スポーツとして楽しみながら続けている選手がたくさんいます。近い将来、本協会のクラブからオリンピック選手が出ることを期待しております。

加種目となり、また、二〇〇〇年のシドニーオリンピックより正式種目に採用されています。世界大会を目指す中高生の選手や生涯スポーツとして楽しみながら続けている選手がたくさんいます。近い将来、本協会のクラブからオリンピック選手が出ることを期待しております。

[山形市体育協会、今昔]

渡辺副会長の死去と副会長の人選 荒木 善行(市体育協会顧問)

「躍動第四号」で述べたごとく、四十八年度を棒に振った私は、残った任期一年を体協活動の責任を果たすべく、諸先輩の指導を受けながら従事することになった。私にとって、理事長初就任の心づもりで新たな緊張感を覚えたのを記憶している。早速、体協理事全員が体協運営に関わっているという認識を持って貰う意味で、専門委員会制にすることを渡辺副会長に相談し了承を得た。

しかし、「一寸先は闇」と言いますが、人間の寿命とははかないものです。七月には、元氣な渡辺克巳副会長が他界されたのである。目先真つ暗になった。一応市体協活動は、理事長を中心に常任理事で長老の設楽清一・佐々木源治・五百川祐一氏等と小松幸雄体育課長との合議制で運営を繋ぐことにした。

そして、副会長の後任についても話し合われたが、各自が適任者なるが故に明快な名前が出てこなかったが無理もない事である。私は、副会長若返り案として市教育委員・前体協理事長安藤重雄氏を挙げたいと考え、常任理事として私の組織改革の考え方を支持してくれた佐藤定夫・村井清彦・松沢道彦氏や理事青山憲好氏らとも話し合い大筋で合意を得た。これを実現するには、民主的手続きは勿論長老の副会長適任者とも思われる方々の了解も必要であろうと考え、三氏との話し合いに着手した。私は、丁度十月山形で開催される全国学校体育研究大会準備の時期であり、小・中・高校の先生方とレポート作成の最中であつた。残暑の八月末から三氏の自宅を何回か自転車で訪問し、私の意図と将来の体協像を説明し安藤副会長就任に協力をお願いした。三氏とも、山形市のスポーツ振興・市体協の在り方については素晴らしい卓見をお持ちで、この苦勞は私にとっても大変勉強になった。結論は、「お前の考え方でやってみる」と四十歳そこそこの私を快く応援して下さることの了承を得た。この時は、本当に先輩の暖かい配慮の有り難さが身に染みた。

十月中旬、安藤重雄氏と会い就任の承諾を得た。

地区振興会巡り

第1回 (大曾根地区)

大曾根地区五年連続優勝

大曾根地区年間行事・大曾根地区体育推進委員

委員長 寒河江 新一

十月十三日(日)、第二十一回山形市民総合大運動会が、山形市陸上競技場で行われました。山形市内三十地区で一番小さい地区であります。五年連続優勝を達成しました。通算八度目の優勝、また六位入賞十一回を達成する事が出来ました。ほんとうにありがとうございました。

★大曾根地区年間体育行事紹介

大曾根地区体育推進委員会本部役員男子六名、女子七名、各町内会、自治会より男子三十六名、女子十三名で構成されています。

四月・年間行事について全体会議

・地区球技大会打合せ

五月・球技大会練習

六月・六月第一日曜日男子ソフトボール大会(第二十五回)

・女子ソフトバレーボール大会(第二十五回)

・大曾根地区、村木沢地区、西山形地区三地区年間体

育行事についての話し合い

七月・地区民登山

八月・大曾根夏祭り

(納涼盆踊り大会)

九月・大曾根地区民運動会

・山形市体育振興会連合会

ソフトボール大会ブロッ

ク予選会

十月・山形市民総合大運動会

一月・インディアカ大会



第49回山形県縦断駅伝競走大会

山形市チーム監督
細谷 幸次郎



山形 岩松選手 写真提供:山形新聞社

【区間優勝】

有沢 英司 選手 仙台大学
第2日目 18区
大江～朝日 11.7km
タイム 38分44秒

【最高殊勲選手】

岩松 雅文 選手 山形大学大学院

4月27日から29日までの3日間、春の出羽路を駆け抜ける山形県縦断駅伝が11チームの参加により開催され、本市チームは、16時間8分47秒の記録で北村山、酒田・飽海に次ぎ、総合第3位でした。

総合順位は昨年同様ですが、各日とも1度もトップに立つことが出来ず、昨年以上に苦しいレースでした。特に第1日は序盤大きく出遅れ我慢の展開となりました。第2区の菊地選手を始め後続区間で冷静着実な走りで遅れを最小限にとどめ、第2日・第3日も各選手がほぼ計算通りに走ってくれたおかげで、何とか第3位を確保できたと言うのが監督としての正直な感想です。

今回は、昨年総合3位という結果を踏まえ、総合優勝へのステップアップとして、総合第2位、そして地元入りの最終日優勝をチームの目標に掲げました。

普段は個々人の練習が主体となっていますが、駅伝に向けた選手のモチベーションアップが重要と考え、メールやチーム通信「がんばれ駅伝」などで選手・スタッフが連

絡を取りながら、蔵王での夏合宿をスタートに、秋からの合同練習や宮城での2回の強化合宿を行い、チームの強化を図ってきました。

大会直前、昨年活躍した若手選手を故障で欠いたこともあり、結果的には目標に一步及びみせんでしたが、現在の戦力で何とか苦境を切り抜けた結果でもあり、何とか今回の経験を50回大会に生かしたいと考えています。

大会は来年で半世紀を迎えますが、本チームの総合優勝は過去2回であり、第9回大会以来となる3回目の優勝がチームの悲願です。

優勝チームとのタイム差は大きく、目標を達成するには課題も多いと思いますが、最終日山形市民の皆様の前をトップで駆け抜け、総合優勝のゴールに飛び込むことができるよう、チーム一丸となって練習を積んでいきますので、今後とも関係各位のご支援とご指導をお願いいたします。

今後の活動

5月 平成14年度功労賞・敢闘賞表彰式
6月 ママさんゼミナール
機関誌「躍動」発行
7月 親子エアロビクス教室
8月 キッズスポーツ教室

10月 キッズスポーツ教室
12月 スポーツフェスティバル
機関誌「躍動」発行
1月 キッズスポーツ教室



職

員

紹

介

①氏名 ②年齢 ③得意種目 ④趣味 ⑤目標 ⑥好きな言葉



①會田 豪紀
②31歳
③スノーボード
④マウンテンバイク
(ダウンヒル)
⑤スポーツを通して色んな方と交流を深め、自分もより多くのスポーツを体験したい。
⑥日々精進

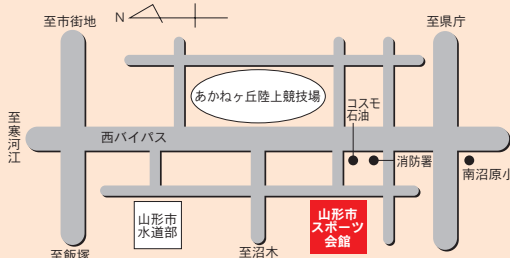


①田苗 伸哉
②22歳
③バスケットボール
④ショッピング
⑤市民一人ひとりにスポーツの魅力を感じてもらい、スポーツを通じて山形市全体を活性化させたい。
⑥not no1, but only one



①佐藤 公平
②19歳
③野球
④読書
⑤山形市民が楽しくスポーツができる環境を作っていきたい。
⑥夢

財団法人 山形市体育協会事務局 (山形市スポーツ会館)
〒990-2477 山形市長苗代61番地 TEL 023-647-4175/FAX 023-645-5595



編集後記

平成15年度がスタートいたしました。法人としての体協が、年度始めより稼動するのも初体験となります。さて、課題としていました、年2回の機関誌発行が実現しました。これにより、これまで遅れ遅れのお知らせになってました、冬季競技の扱いが少しでも早くなるようになります。加えて、加盟団体の紹介などの紙面を組むことができるようになりました。課題はまだ山積しておりますが、ひとつひとつ成し遂げていきたいと考えております。号ごとに、形となって表れる『躍動』編集作業にみな喜びを感じております。更に市民の活躍が増大し、記事にできるならば、一層の喜びとなるでしょう。

市民一人ひとりの“躍動”を期待しております。

編集委員長 菅井 悠武

躍動 第5号 2003 Jun

【発行】 財団法人山形市体育協会
【編集委員】 菅井 悠武、藁谷 義夫、後藤 正博、會田 正一、阿部 英悦、工平 貴夫、小金澤 栄、杉本真太郎、大場 俊一
【事務局】 〒990-2477 山形市長苗代61番地 山形市スポーツ会館内 TEL 023-647-4175 FAX 023-645-5595
【印刷】 (株)大風印刷